

第45回 学校評議員会 会議録

令和3年2月8日(月) 10:00~11:30

弘前高等学校 会議室

出席者 評議員 5名…赤石茂、中根明夫、川村能人、前田一隆、須藤美恵子
学校側 校長、教頭(司会)、事務長、教務部主任、生徒指導部副主任
進路指導部主任、教務部員(記録)

1 校長挨拶

校長 : 7月の第1回評議員会ではねふた制作の様子を見てもらう予定だったが中止となった。様々な行事が中止になる中で、2学年の修学旅行の代替行事として、炊事遠足、研修バス旅行、球技大会を企画、実施した。また、重点校として予備校講師を招いての講義をオンラインで実施するなどしてきた。昼休みを長くするなどして食べ方の工夫を実施してきた。現在も、会食時の感染が多いということで、現在も昼食時は会話をせず、一定方向を向いて食べるように昼休みの巡回指導を行っている。

人間形成の場である学校行事が中止を余儀なくされているが、できる範囲で実施してきた。来年度は何とか実施していきたい。そのために、どうすればできるのかを様々検討している段階である。

2 現状報告(教務部、生徒指導部、進路指導部)

教務部主任 : 今年度は4月から5月にかけての臨時休業の対応に追われたが、現在は授業時間数、進度ともに例年通りの確保ができています。

弘高説明会は2回に分けての分散開催とした。合計の参加者数はほぼ例年通りであった。アンケート結果を見ると、「参考になった」という意見が多かった。「部活動見学をしたかった」という意見もあり、参加者にとって物足りない部分であったのだろうと思う。

中高連携協議会は開催に向けて準備をしていたが、弘前市内でのクラスターの発生に伴い中止とした。

授業アンケートは、ほぼAかBで評価されているが、教員が各自で振り返り、授業改善に役立っている。

保護者アンケートでは、ねふた・公開授業・PTA研修会を中止としたため、この項目について今年度は集計しない。「弘前高校に入学させて良かった」という項目を見てわかるように、概ね良い結果であったが、個々の

項目を見ると改善を要するものもある。4番、6番の生徒の悩みに対する対応、施設設備に対する要望が多く、特に今年度は夏の暑さ、小学校・中学校でのエアコンの設置もあり、例年より多くの声があった。また、体の成長に影響を与える可能性を考え、ロッカーの設置を求める声も多かったが、設置は難しい。13ページの保護者の意見を見ると、厳しいものもある。生徒に向き合う時間の確保、また教員の生徒への言葉がけが改善していくべき内容であると考え。今後は、各分掌からいただいた御意見に回答し、ホームページにアップする流れとなっている。職員による自己評価を参考に、反省・改善に役立てていきたい。

- 教頭 : エアコンと wifi の設置について事務長から説明していただく。
- 事務長 : エアコンは県費で令和3年度に整備、令和4年度から稼働することになっている。現在3年生の教室に設置されているものは、特別教室への移設の予定である。移設経費を県費で執行できないか検討中である。ギガスクール構想で wifi の設置を進めており、今月いっばいで設置を終了し、環境が整い次第、3月からの運用を開始する。新年度からは設備が整った状態でスタートすることができる。また、各生徒に iPad を配布する予定である。
- 生徒指導部副主任 : 資料26ページの二重下線が実施できたものである。今年度実施できなかったものについては、来年度の開催に向けて会議を行ったり、意見集約を行ったりしている。
- いじめアンケートについては、生徒からいじめを受けているという記載はなかった。
- 今年度の事故非行件数を見ると自転車事故が多い。幸い大きなものではないが、今後指導を強化していきたい。
- 進路指導主任 : 進路志望調査に関して、1学年は東北大学、弘前大学医学部医学科を志望する生徒が多く、数としてはほしい例年通りである。2学年も、東北大学、弘前大学医学部医学科を志望する生徒多いが、1学年に比べると、少しずつ数に変化してくる。3学年は出願状況がまとまった。弘前大学・東北大学が多いが、第一志望を貫いた結果であると思う。学校推薦型、総合型選抜について、弘前大学医学部医学科、東北大学A○Ⅲが2月中にあり、25日からの前期一般前に進路が決定する生徒が出てくる。
- 学習状況調査を見ると、学年ごとの傾向はあるが、ほしい似たような傾向を示している。1年から3年にかけてだんだんと学習時間が増えていく。また、予習が必要な教科も出てくることで、高校生としての学び方になってきている。

3 校内一巡

新型コロナウイルス感染症感染拡大防止の観点から割愛

4 意見交換及び質疑応答

教頭 : これまでに関して何か御質問・御意見のある方はいませんか。

評議員 須藤氏 : アンケートの学校からの回答について、公欠願を生徒が各教科の先生方を回り、ハンコをもらっているという話を聞いた。生徒が先生を捜し歩く時間がロスなのではないか。最初から担任に伝え、それを担任がほかの先生方に周知すればよいのではないか。各教科の先生方を回り、声をかけてもらうなどの有益性よりも、ロスの方が大きいように思う。

アンケートの声を見ると、感謝もあるし厳しい意見もある。真摯に受け止めて改善というのももちろんあるが、保護者も改善の必要があるのではないかと思う。学年全体・学校全体を見る目を保護者が持つべきである。

子供が在籍していた当時、保護者としての先輩・後輩と話す機会があった。その時に、私立大学を志望する子の保護者からすると、私立大学についての情報が学校側からあまりにも少なすぎるという話を聞いた。私立大学についても情報を蓄積していくべきではないか。また、文理選択、出願大学の決定に際し、強制的に変えられるような話をよく聞いた。先生方の中でも議論してもらいたい。

評議員 中根氏 : wifi 環境の整備という話の中で、iPad の配布という話があったが、どのように使うのか。またオンライン授業等の計画はあるのか。

教務部主任 : 授業で調べたり、ものを見たりという使い方を想定している。

評議員 中根氏 : 教員と生徒のやり取りには使わないのか。

事務長 : 学内での使用に限ったものである。

評議員 中根氏 : 自習課題の提出等には使わないのか。

教務部主任 : あくまでも学内での使用に限るので、家庭での使用等は想定していな

い。

評議員 中根氏： オンライン授業の計画等はいかがか。

教頭： ドメイン等の問題が解決せず、整備が進んでいない状態である。4月までには整備を整える予定である。

評議員 前田氏： 進路状況について、弘前大学の出願倍率が下がったという報道を耳にしたが、新型コロナウイルス感染症の影響はあるか。

進路指導部主任： 県内の志望者の状況は大きく変わっていないが、北海道からの志望者が少ないようである。東北大学等の難関大学の志望者にはほとんど影響がないのではないかと思う。

評議員 川村氏： コロナ禍で大変だが、生徒数・教員数が変わらない中で厳しいとは思いますが、教室内の生徒同士のディスタンスの確保はどのようにしているのか。空気清浄機等があればいいのかもしれないが、何か工夫はしているのか。iPadについては校内だけでなく、持ち帰って使えるようになればいいと思う。

校長： 生徒同士のディスタンスの確保は難しい。面談を通して、先生方の話を聞くと、生徒同士の会話量を減らすなどの対応をしているようである。また、授業後に窓を開けて換気したり、昼食時は常時換気したりと気をつけている。手洗い・手指消毒を入念に行うように指導している。
先ほど、須藤さんからあった話だが、文理選択の指導については耳にしている。行き過ぎた指導はあるかもしれない。しかし、文転すれば何とかなるかもという理由から、何も指導をしなければ、理型を選ぶ生徒が多い。理科・数学の力がないにも関わらず理型を希望する生徒に対して指導している。

評議員 須藤氏： ある程度の調整は必要だと思うが、行き過ぎた指導についてはいかななものかと思う。

校長： 先生方には、どのような考えで指導しているのかを丁寧に説明するようにお願いしている。

評議員 須藤氏： 学校に対して負の感情を持っている保護者ではない保護者の方から聞いた話であって、「そこまでして変えるのか」と思うような話であった。しかし、私立大学については情報があまりにも少なすぎると思う。

評議員 赤石氏： いじめアンケートでいじめはなかったというのはいいこと。PTA新聞の校長の書いた、「大人社会が子供社会に反映されているため、大人社会を改め直さなければならないのではないか」というのが今後も大事になってくるのではないかと思う。

評議員 前田氏： 公欠願について、教員から生徒への指導等があるのであれば、そこを担保した上で、システムの検討をお願いしたい。

教頭： 再度検討したいと思う。

評議員 赤石氏： 公欠は、学校側でも把握していることを考えると、事後承諾でもいいのではないかと思う。教員と生徒の意思疎通が図られていればいいのではないか。

校長： 生徒がいない、その理由がわからないとなれば学校としては非常に困る。ハンコをもらう作業については検討したい。

評議員 須藤氏： 各教科の先生方に用紙を出す形でもいいのではないか。参考になれば幸いである。

評議員 中根氏： 新型コロナウイルス感染症に係る出席停止等のこれまでの状況を教えていただきたい。

教頭： 濃厚接触者認定によるPCR検査の実施が数件あった。また、発熱や風邪症状の欠席については、県教委からの指示に従いすべて出席停止としている。

評議員 川村氏： 東京やそのほか緊急事態宣言の発出されている都道府県へ試験を受けに行った生徒への対応はどうするのか。

教頭： こちらも県教委からの指示で、「健康観察をした上で出校してよい」ということになっている。

校長 : 以前は2週間出校できないことになっていたが、現在は出校してよいことになっている。25・26日と国公立の前期試験があるが、卒業式にも出席できるようになっている。もし、不安があったりなど出席できない場合は3月15日に校長室で授与することになっている。県教委も以前に比べれば、少し緩めている印象である。

5 学校関係者評価について

教頭 : 学校関係者評価について、年度当初の目標に対して、保護者アンケートや教員の自己評価をもとに評価した。

「確かな学力の育成」については、オンライン研修や互見授業を通して授業力の向上に取り組んだことから、目標の達成度をAとした。

「豊かな人間性と社会性の育成」については、ホームルーム担任の面談等を行ってきた面はあるものの、コロナ禍の影響で行事を実施できなかった部分もあり、達成度をBとした。

「キャリア教育の推進」については、総合的な探究の時間を通して、自己の在り方生き方の考察に取り組むことができたが、まだ改善の余地があることから達成度をBとした。

「重点校としての任務の遂行」については、医学部医学科や難関大学への進学に向けて様々な取り組みを実施してきたことから達成度をAとした。評議員の皆様からの御意見をいただきたい。

評議員 前田氏 : 生徒のアンケートを見る限り、昨年度の反省を生かして取り組んでいる。様々な行事等が中止にせざるを得ない中で、代替案などで生徒たちが自主的に考え、コロナウイルス感染症対策をしながら様々な取り組んできたので、大変だったと思う。また、重点校として、どのような取り組みをしているのか。

校長 : 音楽の授業も歌うことが難しいが、体育館で横並びで校歌を歌うことができた。久しぶりに生徒が歌う校歌を聞き私も感動した。できる範囲で最大限の効果を出せるよう工夫してもらっており、先生方に感謝したい。

進路指導部主任 : 重点校として、セミナーを開催し、河合塾の講師を招き、勉強する機会を提供している。近隣の各校にも声をかけ参加者を募り、とりまとめている。今年度はコロナ禍のためオンライン等で対応した。また、医師

になりたいという志をどう育てるのかを考え、さまざまな取り組みをしている。本校だけでなく、地域全体に広げられるような取り組みを考えている。

評議員 中根 : 「豊かな人間性と社会性の育成」についてはBではなく、Aでもいいのではないかと思う。可能な範囲で精いっぱい行っているのだから、心情的にはAでもいいのではないか。

6 その他

校長 : 卒業式では例年評議員の方々にも案内を出していたが、今年度は3長のみ案内とさせていただいた。様々な制約がある中で、最大限でできることをしていきたい。また、3年生には入試で持てる力を最大限に発揮してほしいと思う。評議員の皆様にはこれからも様々な視点からの意見・情報を学校にお寄せいただきたいと思う。今日は本当にありがとうございました。